

子年、今年はオリンピックイヤーで飛躍へ！

新年明けましておめでとうございます。2020年・令和2年を迎えました。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えになられたことと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和になって初めての新春を迎えました。

今年は子年で干支がしらとなります。少し子年について調べてみます。『漢書』律曆志によると「子」は「孳」（し：「ふえる」



の意味)で、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態を表していると言われてます。後に、覚え易くするために動物の鼠が割り当てられたようです。

よく十二支について話される時に以下のような話が伝わっているのをよく聞きます。

神が十二支の動物を決める際、家の門の前に来た順番に決めることにした。牛は動きが遅いからと真っ先に出かけ、一番に門の前に着いた。しかし、門が開けられる時、牛の頭の上に乗っていた鼠が牛の前に飛び出たので、鼠が一番になったという。なお、猫も十二支に入れてもらおうと準備をしていたが、鼠が集合の日をわざと間違えて教えたので十二支に入ることができなかった。それで今でも猫は鼠を追いかけ回すのだという。

このような子年ではありますが、実は私も子年で、還暦を迎えます。ふり返ってみますと、歳月の流れの早さを実感するばかりですが、年男として気持ちを新たに行動したいと考えています。

さて、本日3学期の始業式を迎えました。元気に子ども達は登校し、久しぶりの再会に顔をほころばせました。3学期は、授業日数50日余りと、あっという間に過ぎ去って



いきます。学習や生活すべてにおいてまとめの学期となる3学期、それらがしっかりとでき、次の学年へ滑らかに繋ぐことができますよう、指導に努めていきたいと考えています。特に、6年生は卒業を控え、残された日々を大事に過ごし、西大路小学校で学んだことを誇りに持てるよう最後の仕上げをしてくださいね。

今年は、夏に東京オリンピックが開かれ、アスリートが世界頂上の技能や手に汗握る熱戦を見せてくれることと思います。そのような世界にも視野を広げ、グローバルなものの考え方も身に付ける中で、子ども達は地に足をつけ、自分の思いや願いに向かって、勉学に勤しんでほしいと願っています。

「中江藤樹像」を見る

本校の旧正門前に中江藤樹先生の銅像があります。先月の中ごろ、この銅像を制作された信楽の窯元の方が来られました。

この藤樹像を制作された窯元は、本校と東京にある桜美林学園の2体制作され、安置されたそうです。その桜美林学園の



藤樹像が少し痛んだようで修復するのに、参考に本校の像を見せてほしいということで来られました。

本校の藤樹像は、1940年（昭和15年）12月30日に現在の場所に安置されたとあり、今年で80年を迎えることとなります。ただ、なぜ藤樹像が安置されたかという経緯が、なかなか判明しません。しかし、西大路の先人が藤樹先生の『致良知』や『五事を正す』といった教えを子ども達に教えたかったのではないかと推測しています。近江聖人の教えを知り、自己を高めていける子ども達に育てたいものです。
〈文責：校長 正野新造〉